

令和7年度 第2回羽島市総合教育会議(会議要旨)

日時	令和8年2月18日(水) 午前10時30分～11時40分
場所	羽島市役所301会議室
出席者	<p>森 嘉長 教育長  今枝 甫 教育委員  今井田 裕子 教育委員  吉川 功 教育委員  松井 聡 市長</p> <p>(事務局職員)  伊藤市民協働部長、丸山生涯学習課長、牛田同課係長  (関係課職員)  不破教育委員会事務局長、小川教育政策課長、児山学校教育課長、  近藤同課教育支援センター所長補佐  (学校関係者)  富田中島小学校長、平松中島小学校運営協議会会長</p>
内容	<p>1 開会  ・会議公開及び傍聴の有無の報告  ・資料確認</p> <p>2 あいさつ (松井市長)</p> <p>3 協議  1 学校運営協議会の現状と課題</p>
協議1	<p>1 学校運営協議会の現状と課題  資料1に基づき学校教育課長より説明  スライド投影「中島小学校学校運営協議会の取り組み」に基づき  中島小学校長、中島小学校学校運営協議会会長より説明</p>
教育委員	<p>羽島市の学校構想の中で10年後、20年後を見据えて、主体性・共同性を身に着けた児童生徒を育てることが求められる。学校運営協議会への子どもの参加、子どもの意見を反映した学校づくりは、特に少子化が進む中では必要ではないかと思う。子どもはこんな学生生活を送りたいという思いがあるし、大人は様々な要素がある中でどう育ててほしい、こういう学校になってほしいという思いがあるので、子どもの意向を反映した主体的な学校づくりが求められていると思うが、主体性の具現化は難しい。</p> <p>様々な子どもを見てきて思うのは、関心を示さない意欲を持たない場合にどう意欲を出させるかが課題であるため、学校、家庭が一定の</p>

	<p>方向性を持ちながら子どもの育成にあたるのが大切だと思う。</p> <p>主体性ともうひとつ、共に活動して何かを成し遂げていくことも必要であり、各学校の訪問では様々な体験型の授業が行われている様子を見てきた。コロナの影響で地域はかなり衰弱したと感じるが、元気な高齢者は多くいるので、地域の教育力を借りて大人と子どもが共に頑張ればもう一度活性化する。そのような方向でないと本当に縮減していくのではないかと思う。</p> <p>コミュニティーセンター館長時代に市内各地域を見ることがあったが、それぞれに特徴があり、長年大切にしている思いがよくわかった。地域により形は違うがそれぞれが地域に一生懸命かかわり、次の世代につなげたい気持ちがあると思う。幼少期や小中学校時代に体験した活動を通して、羽島市に生まれてよかったという思いが擦り込まれ、郷土愛につながるとよい。</p> <p>少子化の今こそ、子どもの思いを引き出しながら学校運営に当たってほしいと願う。</p>
市長	<p>中島小学校の実例の中で、委員の話にあったような子どもの思いのくみ取りについて、運営協議会で活動や試みがあればお教え願う。</p>
中島小学校	<p>年に2回絆会議を行い、中島小学校・堀津小学校・中島中学校の児童生徒が顔を合わせる場を設けている。挨拶や掃除など共通の取り組み項目について、交流しあう中でお互いに参考しながら取り組むこともある。</p>
教育委員	<p>中島小学校では地域の方と共に多くの活動を進めておりとても素晴らしいと感じた。地域と学校の活動をマッチングする人がとても重要だと考えている。</p> <p>学校教育課の説明を受けて、さらに機能的な学校運営協議会を作ること考えたときに、協議会の委員人数が多すぎると思った。例えば羽島中学校は地域の協議会委員人数は22人だが、会議のなかで、ひとり1回は意見が言えているのだろうかという疑問を抱く。</p> <p>そもそも、学校運営協議会とは学校の教育目標などを理解し学校運営に必要な支援を協議するものであり、実際に活動を行うのは地域学校協働本部である。学校運営協議会と地域学校協働本部それぞれが担うことをしっかり分けたうえで、学校運営協議会はもう少し少人数にしてフランクに意見が言いやすい場が必要だと思うし、地域学校協働本部はそれを受けて実際に動きを作っていく、そういった仕組みを正しく整えることがとても大切だと思う。</p> <p>先日の学校構想推進協議会で各地区の特色を読ませてもらったが北部では小学校の地域貢献が少ないとあり、中部でも学校から地域に出ていく活動が増えるとよいという意見があった。南部では外部との</p>

	<p>やり取りをすべて担任が行うので負担であるという意見があったが、学校運営協議会と地域学校協働本部をマッチングするのが地域学校協働活動推進員である。この方が現在どれくらい機能的に動いているのか、どのような方が担っているのか。学校の目標を受けて地域学校協働本部へ持ち込み結ぶ人というのは、各学校に2名は置く必要があると思うし、絶対に報酬が必要だと思う。とてもボランティアではできない活動なので、市として地域学校協働活動推進員を育て活動できるようにマネジメントし、報酬を正しく用意することは大切である。</p>
市長	<p>説明の中でも機能的な体制、各分野での中心人材の確保というあたりが課題に挙げられ、委員の意見は具体的な事例の提案であった。それぞれの役割分担など既に課題として捉えている流れの中で、今後推進すべき事柄について意見を述べてもらいたい。</p>
学校教育課	<p>目標としては学校運営協議会と地域学校協働本部というものの役割の明確化、そしてその二つを繋ぐコーディネーターの存在をイメージしている。ただ来年度からいきなり対応というのは難しいと思っており、まずは部会を整備されること、そして部会に入る方と、学校運営協議会に入る方を分担していただく方向性を作る。その上でコーディネーターを正しく位置づけ進めることを見通しとして考えている。</p>
市長	<p>行わなければならない事項を部会から学校運営協議会までの流れの中で、それぞれのフレームを作りながら進めていくと説明があった。ご提案いただいた地域の実情に応じたフレキシブルな対応を課題として捉えていきたい。</p>
教育委員	<p>まず教育は何のためにあるのか、これは将来の日本を担う子どもを育てようということである。産業界での企業経験で感じたことは、優秀な人でも知識型の人扱いは難しく、望まれるのはものを創る力、創造力がある人である。創造しながらターゲットに向かって、Long term（長期的視野）の中で考えながら進める力が大切だと思う。このような力を身に着ける教育が大切であり、学校運営協議会はそういった社会人経験者、大人の意見と学校をつなぐ唯一の協議会だと思う。</p> <p>推進する上での肝は、学校運営協議会のメンバー構成だと考える。形だけではなく、本当の意味での有識者を各学校区でどう集めるか。これは難しいが、慎重に行い先ほどの意見にあったように5から8人程度の少人数として、喧々諤々と意見が出るような場になれば素晴らしいものになると思う。</p> <p>手段の一つとして期待することだが、校長の権限の範囲を広めてはどうか。どのようなところかは具体的には言えないが、狭められてい</p>

	<p>るように感じる。地域ごとの独自性を出せるような権限拡大というのは可能なのだろうか。学校規模により手段が異なってもよいので、主体性をもって大きな目標に向かい各学校が進めばよいと思う。</p> <p>農業の稲作を営んでいるが、稲作は春から秋までの期間にみえるが、土づくりから始めると1年間のロングスパンであり、令和8年度産の米づくりは令和7年11月から始まる。例えば、種からどう育つかを観察しレポートにして報告にまとめるような教育があれば、知識型教育から創造力が身につく教育へと変わると思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>裁量については、修学旅行の行先や総合的な学習の内容を特化させている市町もある。例えばカリキュラムの編成など、羽島市は他市町よりはどちらかというと裁量が大きいほうと認識しているが、ご指摘は改めて検討したい。</p> <p>コミュニティスクールの一番の狙いは、地域と共にある学校づくりである。教育経済学で言われていることに、教育環境が良いと子どもの育ちが良い。教員の力や家庭の経済力、教育力も影響するが、家庭と同じくらい影響があるのは地域の教育力である。地域と共にある学校づくりは非常に重要であるので、学校の教育活動や地域学校協働活動、地域行事にコミュニティスクールがどのように寄与できるかが重要となってくる。学校の教育活動にさらに参画いただき、場合によっては学校がSOSを出したとき、学校運営協議会はPTAと協働するなど、何ができるかを考えてほしい。</p> <p>地域学校協働活動に対して意見をいただこうと思うと、メンバーが地域で活動される方や講師として来ていただいている方など、活動の当事者であるため評価しづらいと思う。学校運営協議会の委員は、学校の教育活動や場合によっては地域行事などの活動に対して意見を言えるメンバーであればよいと思う。どうしても重なることがあるとは思いますが、精査してもよいのではないかと思います。</p> <p>もう一つ大切な評価者である子どもにも意見を聞いてみたい。例えば子ども会が縮小する事例があるが、子どもたちはそれをどう思っているのかを聞く。子どもたちから地域学校協働活動や学校行事でやってみたい事などの意見を引き出すためにも、子どもたちが学校運営協議会に参加するとともに、意見を言いやすいメンバー構成が必要かと思う。</p> <p>現実的な課題として、地域学校協働活動のコーディネーターは教頭が担っている場合が多く、負担として時間外勤務が一般教員より平均で20時間多い。そういった意味でもコーディネーターの位置づけは今後必要になってくる。</p> <p>先日の会議で紹介があったが、羽島中学校でPTAが主催する行事</p>

	<p>があった。これは次年度入学する足近小学校、小熊小学校、正木小学校の6年生を招いてレクリエーションを行うものであり、子どもたちはすぐ友達になり満足して帰ったということだった。これはひとつのヒントであり、子どもたちのニーズを受けフットワークを軽く進めるためにも、誰がどうコントロールしていくか、機能的、構造的な面を考える必要がある。</p>
市長	<p>保護者の当事者意識というのは極めて大きな問題である。例えば、PTA活動は保護者が当事者として学校運営に関わる本来の趣旨目的にすべきであると考え。PTAの役割をどこまでのテリトリーとして考えるか、そして地域の方、子どもたちとの関わりを一体化するとき、保護者が親としてやらなければいけないと考え、自らのお子さんを預ける学校との協力体制を改めて考えるべきではないか。</p> <p>もう1点、説明にもあったが心配するのは学校区と地域コミュニティの問題である。とりわけ上中町は長間が学校区として分かれているため、バスを利用するなどして地域活動に集まり共に盛り上げようという動きがあったが、長間から集まる方は非常に少ない状況であった。市内にも学校区と地域コミュニティが違う地域が数か所あり、これを解決していくことが学校運営の中でも大切であると常に思っている。</p> <p>ほかに意見があれば伺いたい。</p>
教育委員	<p>中島小学校の実践例を見て、コミュニティスクールが始まり9年目として定着し機能していると実感した。一番のキーパーソンであるコーディネーターが部会の場で、行事をどう進めるか、どう子どもを育成するか、どう地域と共同するかを具体化していくとよい。</p> <p>高齢者も自分たちの力が役に立っていると感じ、子どもたちも共同活動を通して成長し、成長の先に地域に貢献できる心が養われて、地域愛の育成につながると思う。</p> <p>教科教育の学力は教員の仕事、挨拶運動や見守りなどは従来のおり組織で継続して行っていくということによりよい。子どもたちの意見を聞きながら、行事の計画、実施、反省を繰り返し次の年につないでいくことで、子どもとともに地域も成長するとよい。</p>
教育委員	<p>地域学校協働本部の実働部隊の方と子どもたちが、お互いの名前や顔がわかるような関係を築くことで子どもたちが地域に入りやすくなる、そんな繋がりが地域と子どもたちの間にあるととても良い。</p> <p>思いが大きくなりふるさとが良いと感じられるように、繋がりを広めるような活動を進めてほしいと思う。</p>

教育委員	<p>桑原学園での活動に桑原町民として参加しているが、私の名前を子どもたちが覚えてくれており非常にうれしく思っている。スイカづくりや大豆づくりなどの活動で、スタートから収穫までのすべてを通して創造力を身に着けてほしい。</p> <p>学校区が違うことについて保護者と議論した時、桑原は下手であると言われ地域に上手や下手といった意識があると理解したが、それは教育に関係はない。将来の教育や子どもたちをどう育てるかを考え、学校ごとに美術や音楽、スポーツに適した環境など特色があると言うことができれば、田舎や街だといった意識が変わり、子どもたちが学校を選び個性をより伸ばせる教育ができるようになると思う。</p> <p>学校運営協議会のメンバーについては、理解の浅い人に深くせよというのは無理であると思う。自分の意見を持ち参加してくれる人を引っ張り上げ、PTA会長や学校運営協議会のメインメンバーになるとよい。出発点は学校ではなく保育園時代からかもしれないので、保育園時代に保護者を引き込むことから始めないと難しいのではと思う。</p>
教育委員	<p>上手、下手という地域の意識についてだが、桑原の活動を見たことがあり、保育園から小中学校まで皆が集まり、皆が顔見知りで名前を呼びあい、夏まつりでは踊ったりステージで発表したりと協力して動いており、地域力がすごいなという印象を持った。そう感じている羽島市民もいると知ってほしい。</p>
教育長	<p>桑原は地域の教育力の影響が大きいと思う。特に小学校は大きい。地域とともにある学校づくりは意図せずともそうなる可能性があり、学校運営協議会が地域の教育力をどう生かしていくかが大事である。</p> <p>学校を核とした地域づくりという側面もある。小学校単位の地区は学校が核となっており、学校がどうあるかは地区によっては大きく影響力し関心も大きい。その証拠に、中学校・高校に対してよりも、小学校に対してのほうが熱がこもっており、地域の教育力の影響が大きいと感じる。</p> <p>一方、中学校部活動の地域展開を行っているが、これは全市一区としている。羽島市の団体や企業の方には地域や学校区にとらわれず指導いただいております、ある意味中学生たちは良い経験をしている。地域の教育力を学校区で捉えることも大事だが、広く捉えていく観点、例えば、コミュニティスクールあるいは地域学校協働活動を展開するときに学校区で完結しないということも今後必要ではと思う。</p>
	4 閉会